

「二度目の死の予告と弟子たちの対応」

2023年04月24日

「この言葉を耳に収めておきなさい。人の子は人々の手に渡されようとしている。」弟子たちはその言葉が分からなかった。彼らには隠されていて、理解することができなかったのである。彼らは怖くてその言葉について尋ねられなかった。(ルカ9:44~45)

弟子たちの間で、自分たちのうち誰がいちばん偉いかという議論が起きた。イエスは彼らの心の内を見抜き、一人の子どもを引き寄せ、ご自分のそばに立たせて、言われた。

「私の名のために、この子どもを受け入れる者は、私を受け入れるのである。私を受け入れる者は、私をお遣わしになった方を受け入れるのである。あなたがた皆の中でいちばん小さい者こそ偉いのである。」(ルカ9:46~48)

苦しむ人たちの生を支え、病を癒やす、主イエスの確かな言葉と力ある業に、民衆は驚き、感激していた。そのような時、主イエスは弟子たちに「この言葉を耳に収めておきなさい」と、特別な注意を喚起するようにして言われた。弟子たちは重要なことを話されると思って聞いた。主イエスは、「人の子(主イエス)は人々の手に渡されようとしている」と語られた。今から、都エルサレムに向かう。そこで、最高法院の偉い議員たちに裁かれ、殺されると、二度目の死の予告をされた。ところが、弟子たちは主イエスの言葉を理解することができなかった。素晴らしい言葉と力ある業に、民衆は深い信頼と尊敬を寄せていた。権威ある宗教家たちや権力を持つ政治家たちに臆することなく、彼らの偽善と高慢を容赦なく批判される主イエスに圧倒されていた。その主イエスが、「人々の手に渡される」、そして、死を迎えるなど、分かるはずもなかった。そして、弟子たちは、その言葉が怖くて、尋ねることができず、黙っていた。

死の予告が告げられた後、弟子たちの間で、誰が一番偉いかという議論が起こった。彼らは、主イエスはエルサレムに上り、革命を起こして、王になってユダヤを支配されると期待していた。主イエスが王になられた時、誰が一番偉いか、即ち、誰が一番高い地位を得るかが関心事であった。先ほど、死の予告が告げられたのに、そのことは全く耳に入らず、自分はどの地位を得られるかを論じ合っていた。語っても聞いてもらえない主イエスの心の寂しさはいかほどであったであろうか。主イエスは誰からも理解されず、深い孤独の中で、苦難の道へと歩み続けられたのである。

主イエスは、弟子たちの心の内を見抜いて、一人の子どもを引き寄せ、ご自分の傍に立たせて言われた。「私の名のために、この子どもを受け入れる者は、私を受け入れるのである。私を受け入れる者は、私をお遣わしになった方を受け入れるのである。あなたがた皆の中でいちばん小さい者こそ偉いのである。」子どもは12歳になった時、律法の枠内に置かれ、一人前に扱われたが、それより年少の子どもは軽視された。主イエスは幼い子どもを招き、取るに足りない小さい者を受け入れる者は私を受け入れ、私を受け入れる者は、私を遣わされた方、神を受け入れる者であると言われた。小さい者、捨てられた者を受け入れることが、神の御心であると言明された。福音書における主イエスの行動は、この一点に集約される。そして、一番小さい者こそが一番偉いのであると弟子たちに語られた。

人は皆、自分が上に立って、偉そうに支配することを望む。しかし、主イエスは真逆な、下の者こそが上なのだと言われた。この価値の逆転が福音の核心である。主イエスはどん底の十字架の死にまで下り、そこで、人を生かす真理を現わされた。